

## 第4章 計画段階配慮事項並びに調査、予測及び評価の手法

### 4-1 環境に影響を及ぼす行為・要因の抽出

本事業の実施に伴い、事業実施想定区域及びその周辺の環境に影響を及ぼすおそれがある行為・要因（以下、「影響要因」という。）について、事業特性を踏まえ抽出した結果は、表 4-1-1 に示すとおりである。

表 4-1-1 影響要因の抽出

区 分	影響要因	内 容
工事中	水面の埋立て	濁水の発生、動植物の生息地・生育地の改変、廃棄物等の発生
	建設機械の稼働	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、温室効果ガスの排出
	工事関係車両の走行	大気汚染物質の排出、騒音・振動の発生、温室効果ガスの排出、交通安全への影響
存在時	埋立地の存在	水質・流況の変化、動植物・生態系への影響、景観の変化

### 4-2 計画段階配慮事項の抽出

事業特性を踏まえて抽出した影響要因（前掲表 4-1-1）に基づき、事業実施想定区域及びその周辺の地域特性を勘案したところ、工事中の水面の埋立てによる濁りの発生が懸念されることから、本事業の実施に伴い重大な影響のおそれのある環境要素として、水質・底質を抽出した。抽出した環境要素と影響要因の関連は表 4-2-1 に、抽出した理由は表 4-2-2 に示すとおりである。

なお、「環境影響評価技術指針」によると、計画段階配慮事項の抽出については複数案ごとに行うこととしているが、本事業における複数案は岸壁構造の違いによるものであり、影響要因及び環境要素に差はないと考えられるため、計画段階配慮事項は複数案の共通とした。

表 4-2-1 計画段階配慮事項として抽出した環境要素と影響要因の関連

		影響要因の区分	工事中
環境要素の区分		細区分	水面の埋立て
水環境の保全	水質・底質	浮遊物質量	○

表 4-2-2 計画段階配慮事項として抽出した理由

環境要素	時期	抽出理由
水質・底質	工事中	・埋立工事に伴い発生する濁水による海域への重大な影響が考えられる。

#### 4-3 調査、予測及び評価の手法

##### (1) 水質・底質

調査、予測及び評価の手法を表 4-3-1 に示す。

表 4-3-1 調査、予測及び評価の手法

調査	調査目的	事業実施想定区域周辺の公共用水域の水質の現況把握
	調査事項	事業実施想定区域周辺の公共用水域の水質の現況
	調査方法	公共用水域における水質調査データの整理
予測	予測事項	工事中に発生する水質汚濁物質の発生量
	予測項目	浮遊物質発生量
	予測条件	建設機械の種類 掘削する底質等の状況
	予測方法	工事計画、負荷量からの推計
	予測場所	事業実施想定区域周辺海域
	予測時期	工事による水質汚濁物質発生量が最大となる時期
評価	評価手法	複数案間における発生量の比較整理